

梶ヶ谷貨物ターミナル

視 察 資 料

[環 境 委 員 会 資 料]

資料1 3 処理センター体制と廃棄物鉄道輸送
について

平成27年7月21日

環 境 局

3 処理センター体制と廃棄物鉄道輸送について

1 3 処理センター体制をスタート

現在の4つの敷地を有効活用し、市全体で、通常3つの処理センターを稼働し、1つを休止、建替とする3処理センター体制を整備することとしています。

平成27年度には、ごみ焼却量が3処理センター体制へ移行可能な目安である「37万トン」を下回る見込みのため、本年4月に橘処理センターを休止し、処理センターを3つの稼働に移行しました。

なお、3処理センター体制の移行で維持管理コストや建設コスト削減により40年間で約720億円の経費縮減効果を見込んでいます。

3処理センター体制
(40年サイクル)のイメージ



	H27年度～	H34年度～	H44年度～	H54年度～
橘処理センター	休止・建替	稼働		
堤根処理センター	稼働	休止・建替	稼働	

※現在、王禅寺処理センターでは、平成28月3月完成に向け、資源化処理施設・環境教育普及啓発施設の工事を実施しています。また平成28年12月には「健康とふれあいの広場」の完成を予定しています。なお、環境教育普及啓発施設と「健康とふれあいの広場」については、愛称募集を検討しています。

2 廃棄物の鉄道輸送について

本市は南北に長い地形のため、北部地域で発生するごみ・資源物についてJR貨物梶ヶ谷ターミナル駅から鉄道を活用して、南部に立地する焼却処理施設や資源化処理施設、最終処分場へ輸送しています。この取り組みは、平成7年に全国で初めて導入した環境に優しい輸送方法で、本年(平成27年)で20年となります。

なお、輸送しているごみ・資源物は、普通ごみ、焼却灰、空き缶ペットボトル、空きびん、ミックスパー、プラスチック製容器包装等となっています。

※JR貨物からは、廃棄物鉄道輸送事業の20周年の記念行事を企画している旨を伺っています。

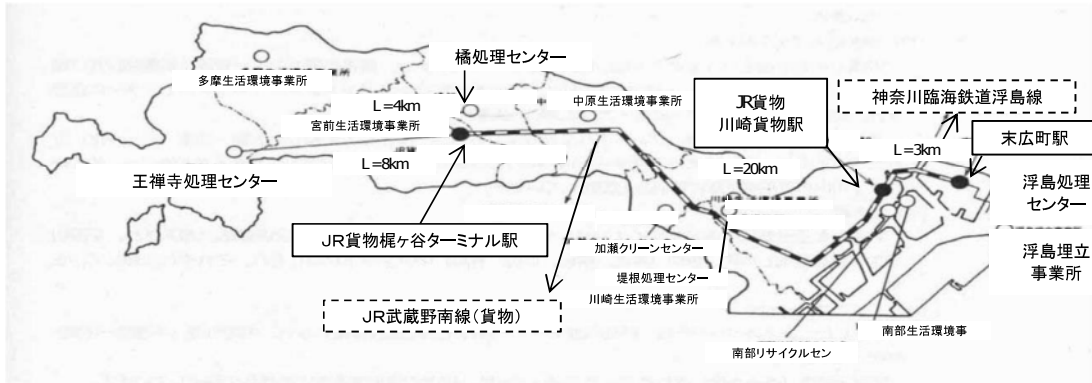


【クリーンかわさき号】

鉄道輸送概要

鉄道輸送事業は、従来の自動車のみによる輸送を一部代替する方法として、JR貨物線及び神奈川臨海鉄道を活用し、一般廃棄物を鉄道で輸送するシステムであり、川崎市が全国で初めて導入したものです。

これにより、交通事情に伴う運搬効率の低下の改善や、自動車の排出ガス軽減などによる環境負荷への低減が図れるものです。

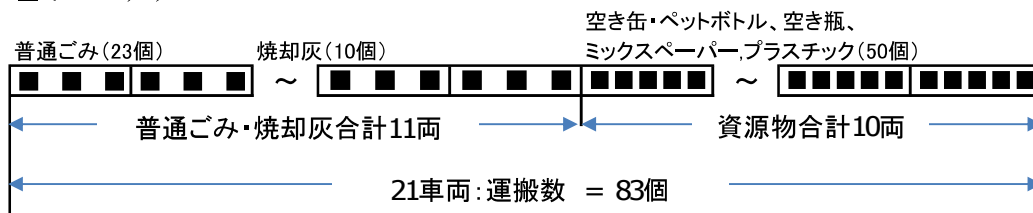


【H27年度 鉄道輸送計画】

	年間運搬量(t)	年間コンテナ運搬数(個)	日コンテナ運搬数(個)
普通ごみ(王禅寺)	28,840	4,808	18
焼却灰(王禅寺)	13,565	1,834	8
空き缶・ペットボトル	1,189	1,469	5
空きびん	3,843	1,615	6
ミックスペーパー	9,589	4,360	14
プラスチック製容器包装	8,235	8,235	27

【列車編成及びコンテナ積載概要 (最大積載時)】

■ : コンテナ



【ごみ輸送時刻】

ごみ・灰積コンテナは15:30に持込締切

資源ごみは16:00に持込締切

